「キャリア教育の推進に係る調査研究事業」アンケート調査結果（概要）

１．アンケート調査概要

カテゴリー	対象先	回答数	実施時期
中学生	県内の公立中学校39校の生徒（全学年）（約10,200人）	8,683	令和5年8月28日～令和5年10月13日
高校生	県内の県立高校136課程の全生徒（約79,400人）	62,266	令和5年8月28日～令和5年10月13日
大学生	県内にキャンパスがある大学の学生（学部3年生、５年生）（約27,000人）	1,135	令和5年9月15日～令和5年10月31日
社会人	県内高校卒業後の社会人（10年目まで）	276	令和5年10月6日～令和5年10月22日
	県内高校卒業し、大学卒業後の社会人（10年目まで）	213	令和5年10月6日～令和5年10月22日
中学校	県内の公立中学校56校	56	令和5年8月28日～令和5年10月13日
高校	県内の県立高校136課程	136	令和5年8月28日～令和5年10月13日
県内企業	県内に事業所がある企業12,000社	1,698	令和5年8月4日～令和5年8月28日

２．アンケート調査結果（一部抜粋）

（１） 生徒・学生の自己認識・仕事をするまでに身に付けておきたい／身に付けてほしい力

① 基礎的・汎用的能力の自己認識（中・高・大・社）

基礎的・汎用的能力の自己認識についてみると、「友だち（他者）の意見は、相手の気持ちを考えながら聞くようにしている」がすべての対象で最も多い。４つの分類でみると、「人間関係形成・社会形成力」が相対的に多い一方、キャリアプラニング能力は相対的に少ない（図１）。

※自分に当てはまると感じるものを全て選択

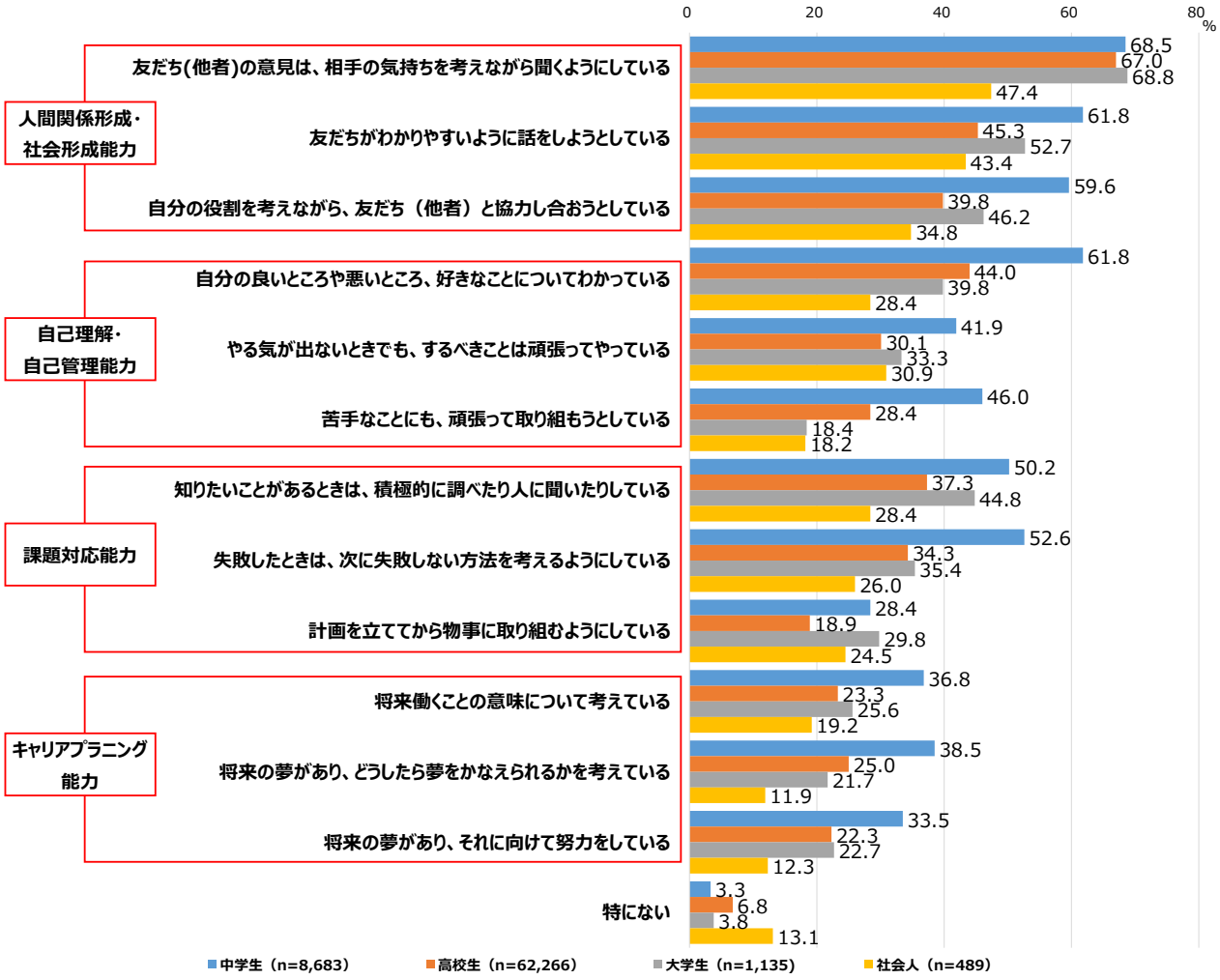


図 1 基礎的・汎用的能力の自己認識

② 職業適性・社会認識・将来の展望等（中・高・大・社）

「自分が社会とつながっている」、「自分がどのような職業に向いているかわかっている」は中学生から社会人にかけて、その割合は大きくなる一方、「保護者や家族とよく会話する」、「将来、充実した人生を送ることができると思う」はその割合は小さくなっている（図２）。

※「そう思う」「まあそう思う」「あまりそう思わない」「全くそう思わない」のうち、「そう思う」「まあそう思う」と回答した割合

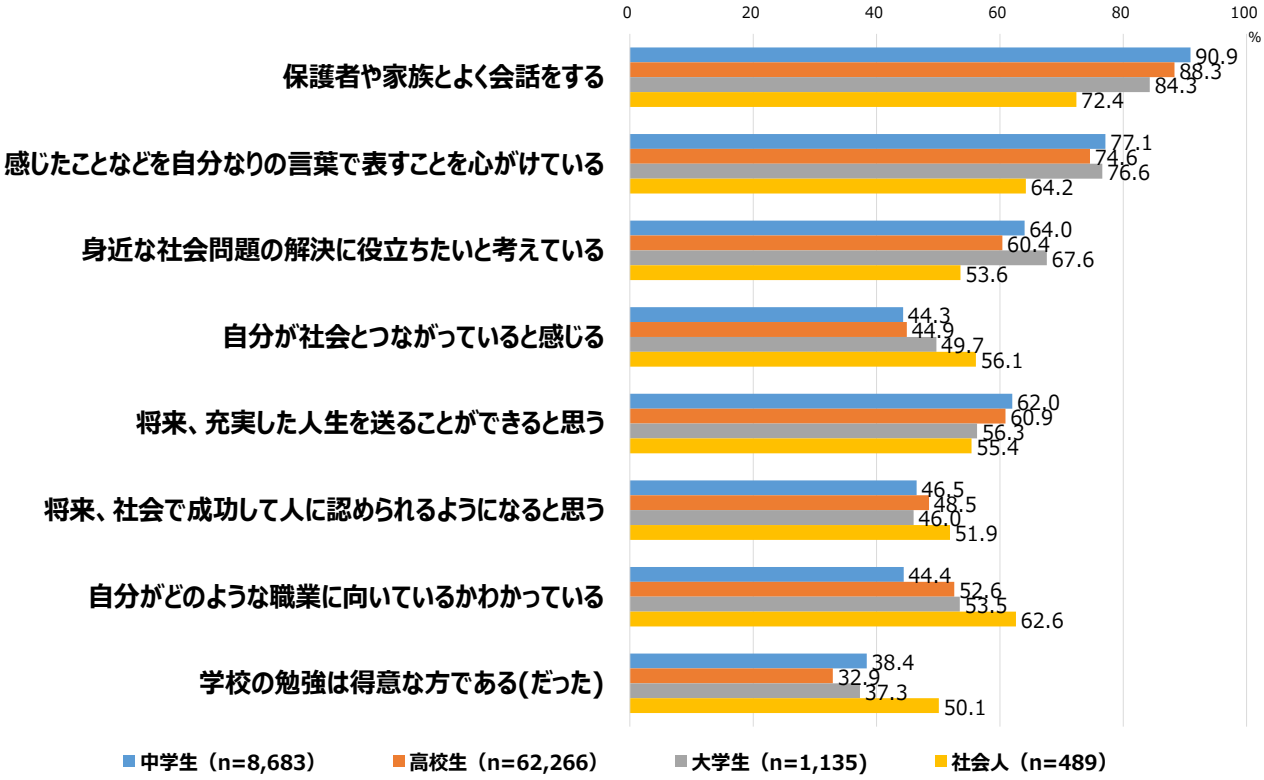


図 2 職業適性・社会認識・将来の展望等

③ 仕事をするまでに身に付けておきたい力・身に付けてほしい力（高・大・社・中学校・高校・県内企業）

仕事をするまでに身につけておきたい力についてみると、高校生、大学生において「コミュニケーション能力」が最も多く、次いで「一般常識」となっている（図３）。

※高校生は３年生のみ。身に付けておきたいと思うものを全て選択

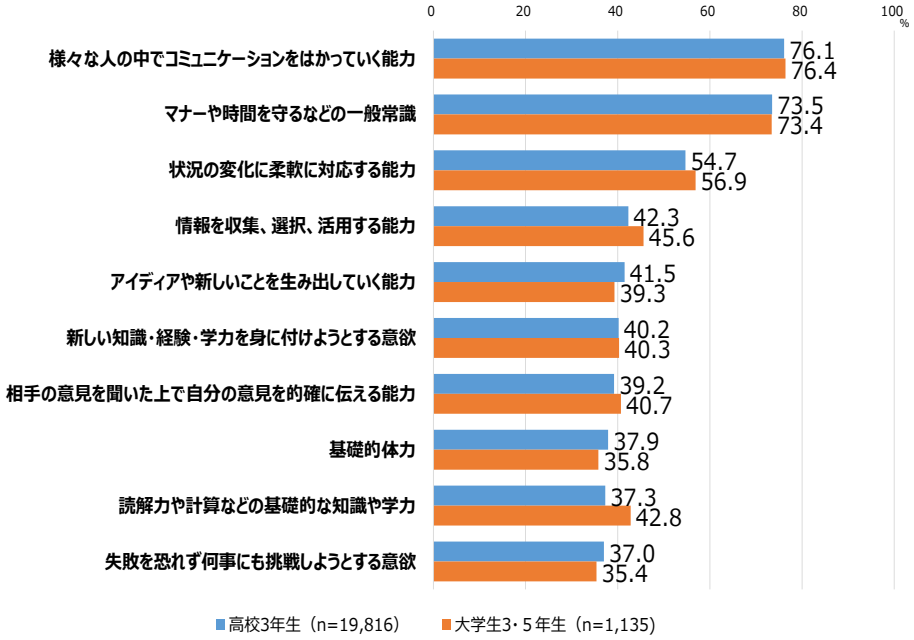


図 3 仕事をするまでに身につけておきたい力（上位 10 項目を記載）

県内企業が、高校生・大学生に仕事をするまでに身に付けてほしい力についてみると、「一般常識」が最も多く、次いで「コミュニケーション能力」となっている（図４）。

生徒・学生は、「状況変化に柔軟に対応する能力」や「情報を収集・選択・活用する能力」を重視する一方、県内企業は「基礎的体力」を重視している（表１）。

※「身に付けてほしいもの」を、高校生、大学生は当てはまる項目を複数回答、がっこう、企業は上位５つまで回答

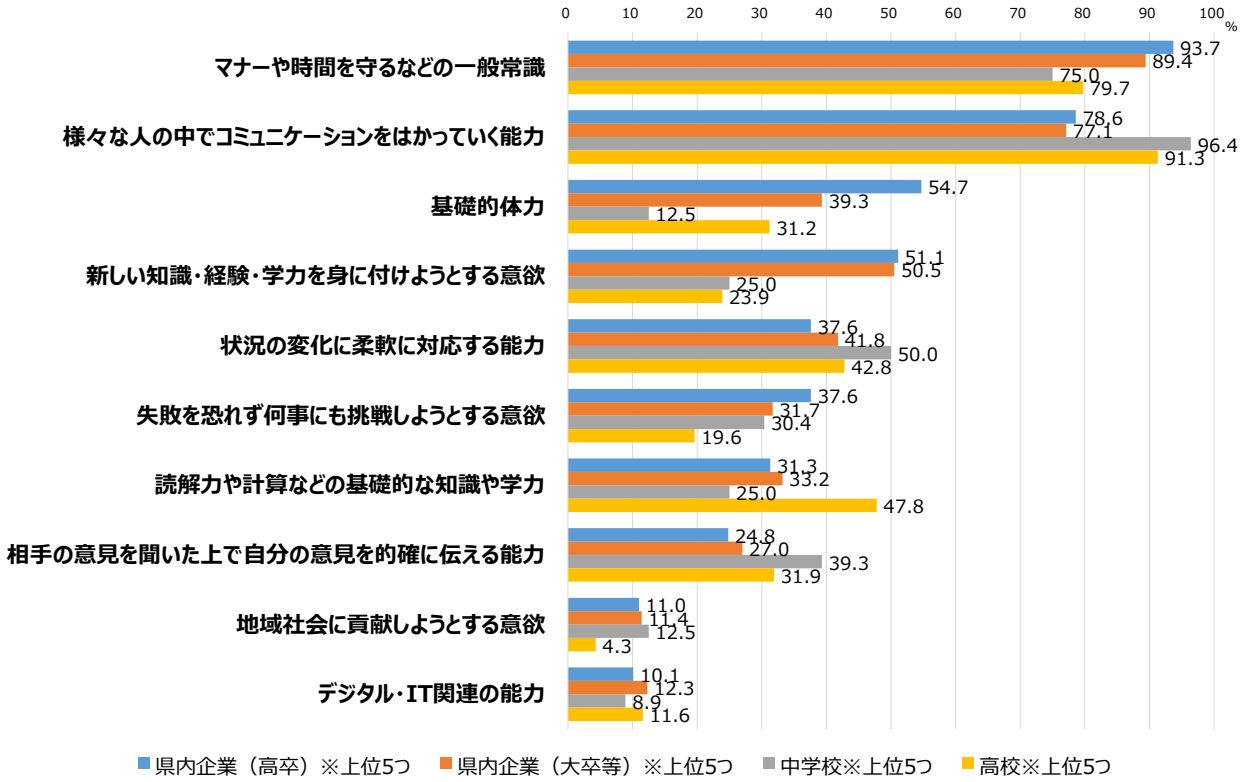


図 4 仕事をするまでに身に付けてほしい力（上位 10 項目を記載）

表１ 仕事をするまでに身に付けておきたい／身に付けてほしい力（各対象）（上位５項目）

	高校3年生	大学3・5年生
1位	コミュニケーション能力	コミュニケーション能力
2位	一般常識	一般常識
3位	状況の変化に柔軟に対応する能力	状況の変化に柔軟に対応する能力
4位	情報を収集、選択、活用する能力	情報を収集、選択、活用する能力
5位	アイディアや新しいことを生み出していく能力	基礎的な知識や学力
	県内企業（高卒採用）	県内企業（大卒等採用）
1位	一般常識	一般常識
2位	コミュニケーション能力	コミュニケーション能力
3位	基礎的体力	新しい知識・経験・学力を身に付けようとする意欲
4位	新しい知識・経験・学力を身に付けようとする意欲	状況の変化に柔軟に対応する能力
5位	状況の変化に柔軟に対応する能力	基礎的体力
	中学校	高校
1位	コミュニケーション能力	コミュニケーション能力
2位	一般常識	一般常識
3位	状況の変化に柔軟に対応する能力	基礎的な知識や学力
4位	情報を収集、選択、活用する能力	状況の変化に柔軟に対応する能力
5位	相手の意見を聞いた上で自分の意見を的確に伝える能力	情報を収集、選択、活用する能力

（２） 進路意向

① 進路意向（高）

高校生の進路意向についてみると 「大学」が最も多く、次いで「専門学校・各種学校」、「正規社員や正規職員として就職」となっている。大学への進学希望のうち、「大学（法律・政治・経済・経営・商学・社会・メディア・国際）」が最も多く、次いで「大学（文学・人文・人間・心理・外国語・教育・福祉・介護）」と文系の学部への進学希望が多い（図５）。

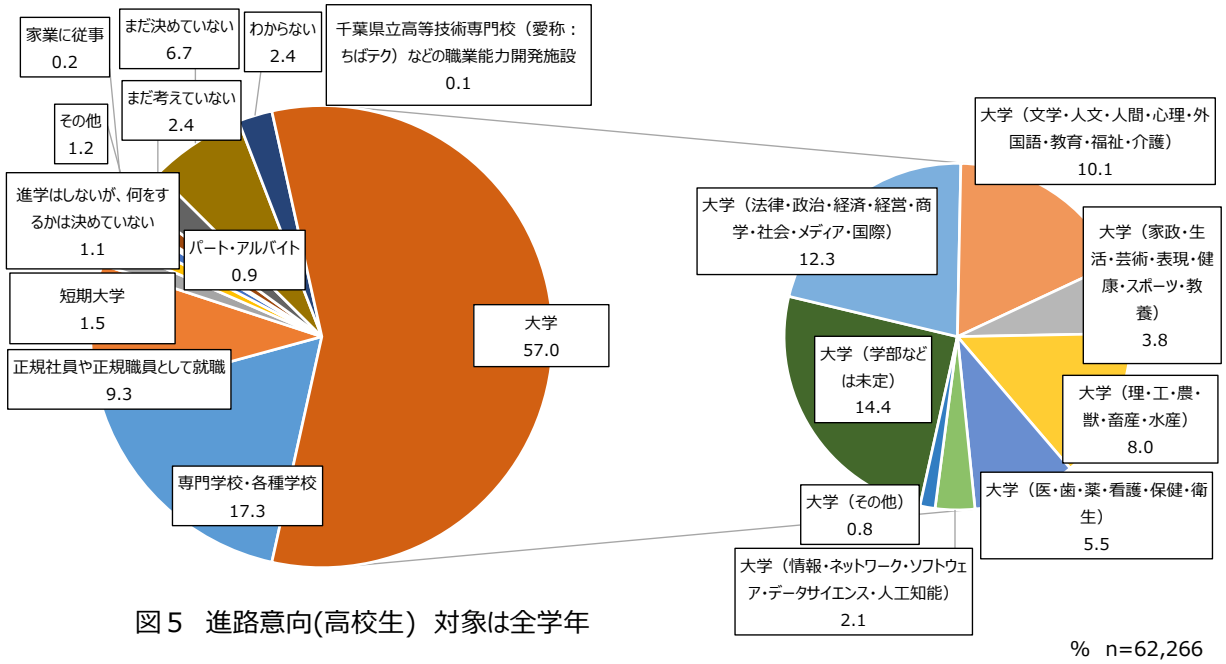


図５ 進路意向(高校生) 対象は全学年

② 進学を希望する理由（高）

高校生が進学を希望する理由は、「自分の興味・関心に合ったことを勉強したいから」が最も多い（図６）。

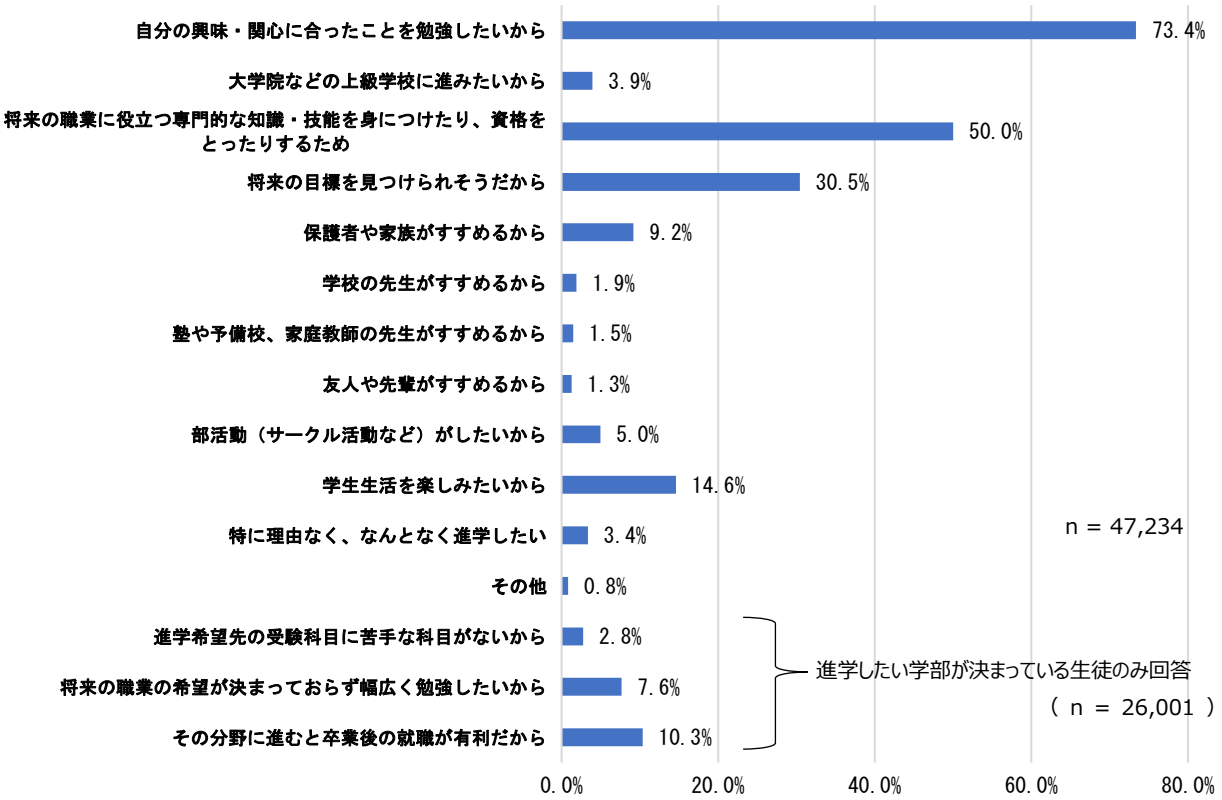


図６ 上級学校・その学科への進学を希望する理由（高校生）

③　進路意向（中）

中学生の進路意向についてみると 「高等学校の普通科」が最も多い。２年生では、「まだ決めていない」、「まだ考えてない」、「わからない」、も一定数いる。（図７）

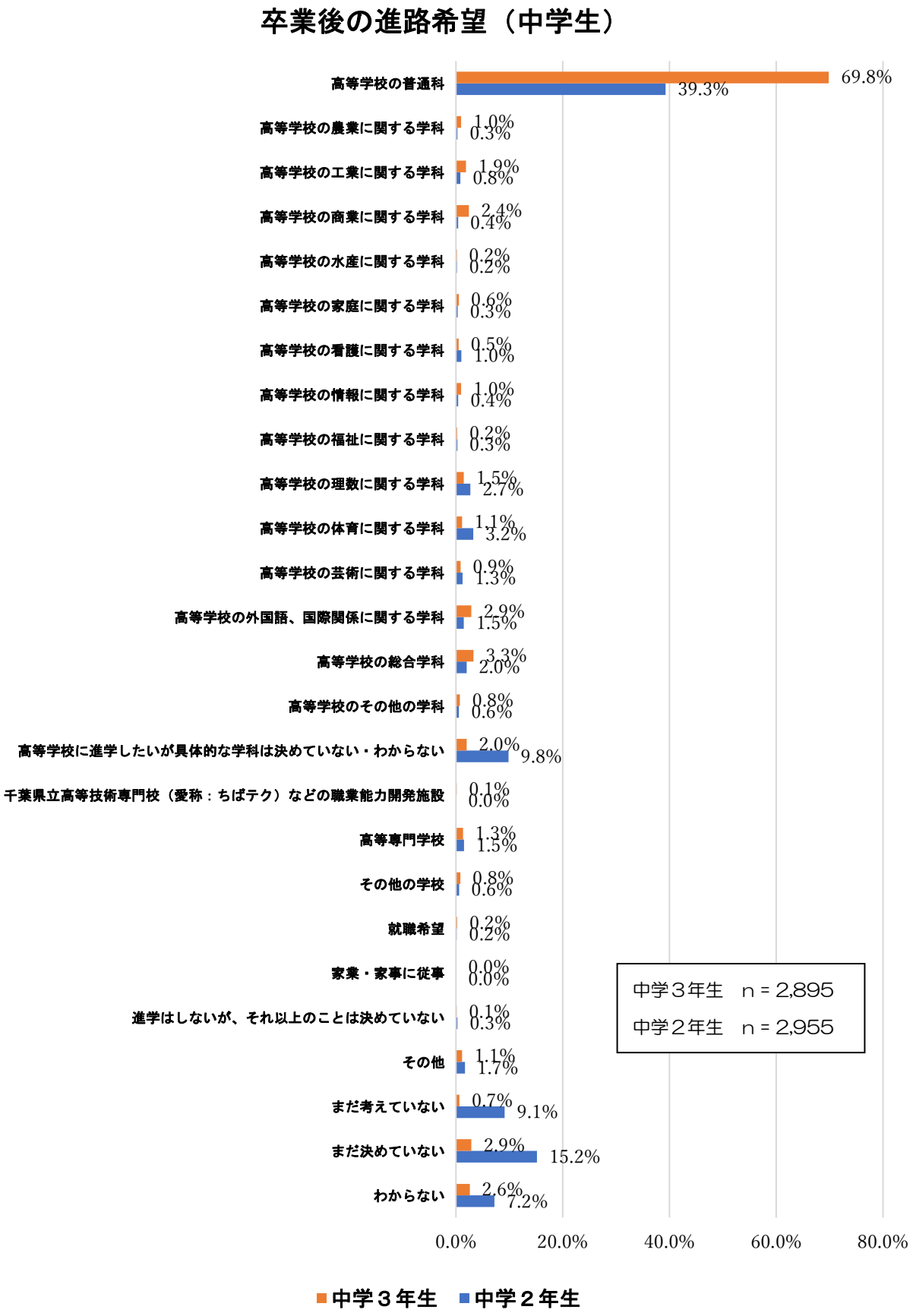


図７　進路意向(中学生)　対象は３年生と２年生

④　進学を希望する理由（中）

普通科への進学を希望する理由は、「大学、短期大学、専門学校等に進学したいから」、「将来の夢が見つけられそうだから」、「自分の学力に合っているから」が多く、専門学科への進学を希望する理由は、「将来の就職に役立つ知識・技能や資格が得られそうだから」、「好きな勉強ができそうだから」、「将来の夢が見つけられそうだから」が多い。総合学科への進学を希望する理由は、「将来の夢が見つけられそうだから」、「大学、短期大学、専門学校等に進学したいから」、「したい部活動ができそうだから」が多かった（図８）。

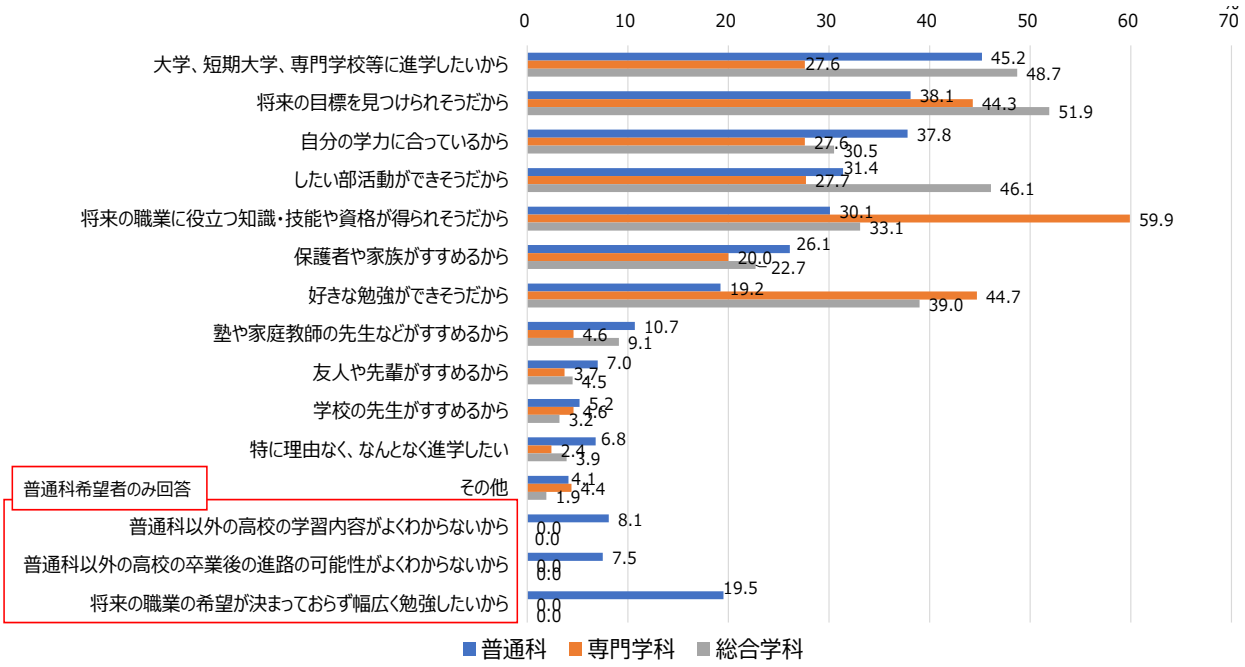


図８　上級学校・その学科への進学を希望する理由（中学生）

⑤　就きたい職業（中・高・大）

就きたい職業について、「決まっている（「決まっている」とおおよそ決まっている）の合計」をみると、中学生から高校生にかけて、その割合は大きくなっている。一方、「決まっていない（「決まっていない」）と「まだ考えていない」の合計」は、大学生でも 35.9%と約 1/3 が「職業を決めていない」ことがわかる。（図９）。

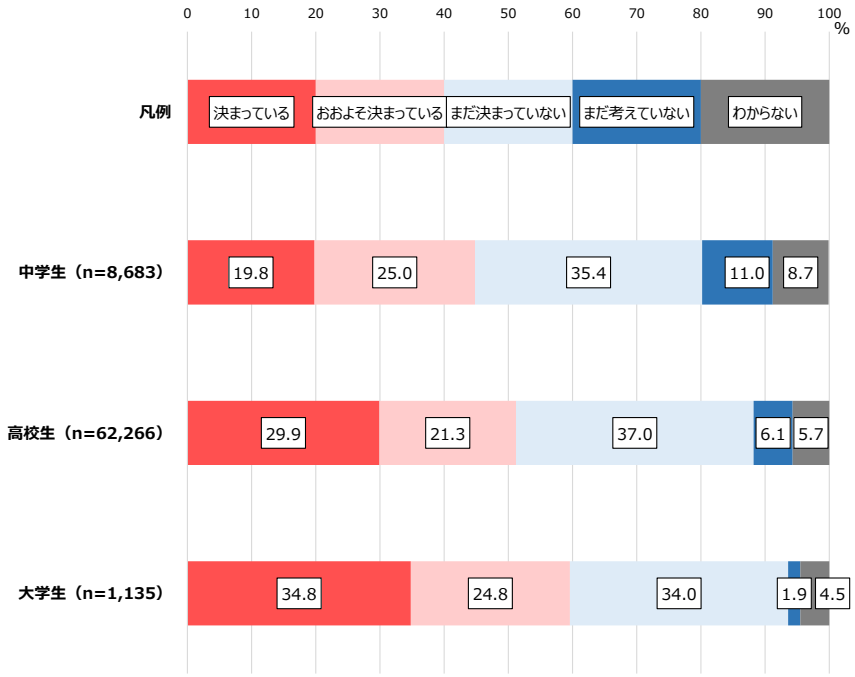


図９　就きたい職業

⑥　就きたい職業を決めたきっかけ（中・高・大）

就きたい職業を決めたきっかけについて、中学生・高校生では「テレビ、映画、インターネット等」が最も多いが、大学生では、「職場見学、職場体験などで見たり体験したりした」が最も多くなっている（図 10）。

※きっかけとして、近いと感じるものを全て選択

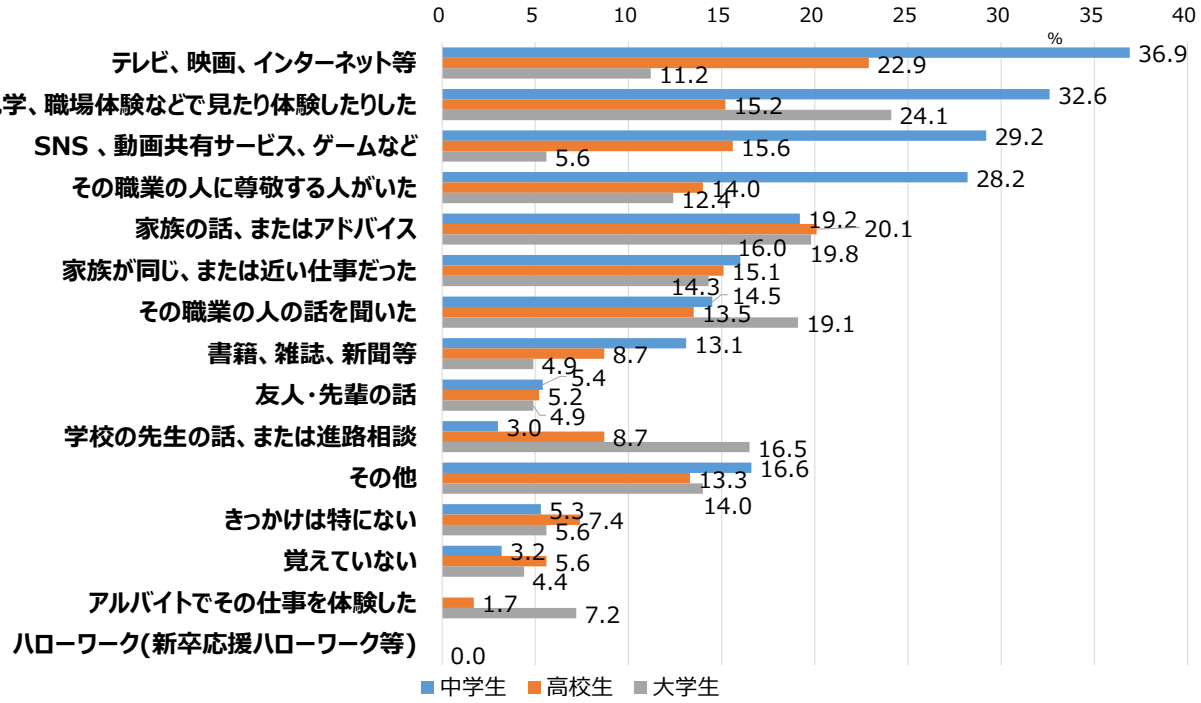


図 10　就きたい職業を決めたきっかけ

⑦　働く目的（中・高・大・社）

働く目的についてみると、中学生は「好きなことを仕事とするため」が最も多いが、高校生から社会人にかけて、「暮らすのに必要なお金をもらうため」が多くなっている（図 11）。

※働く目的として近いと感じるものを全て選択

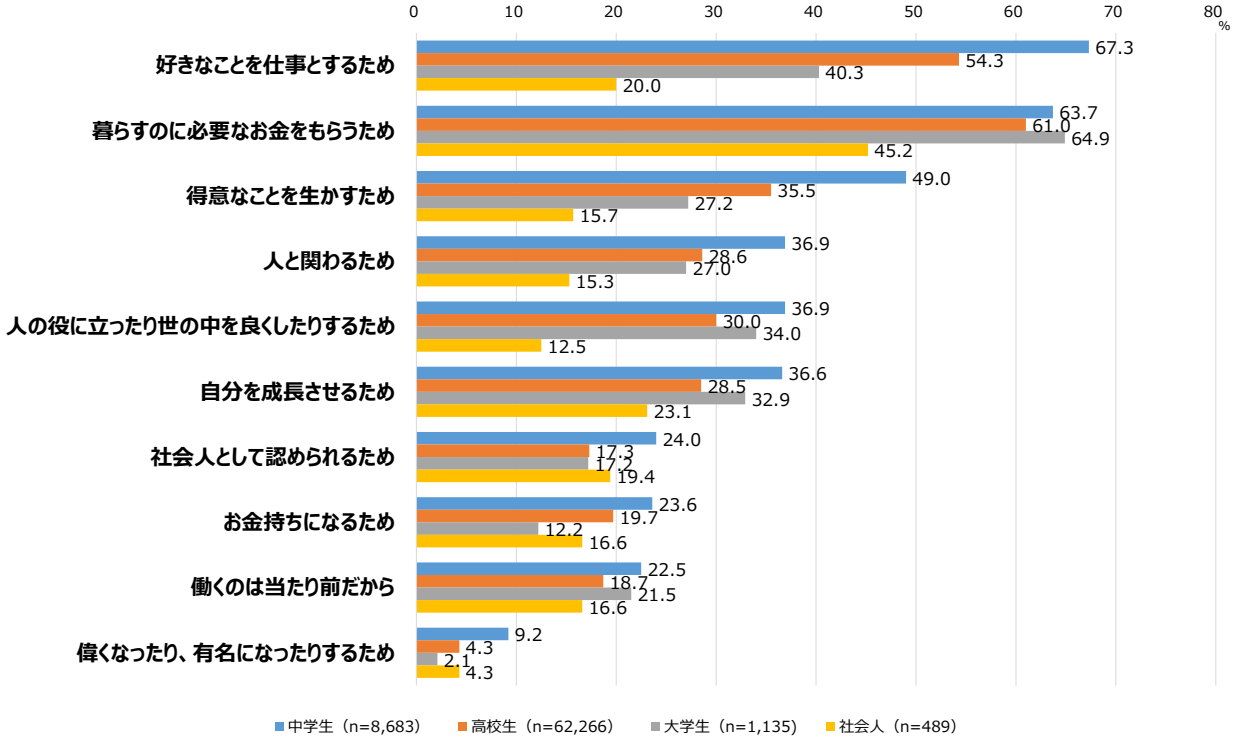
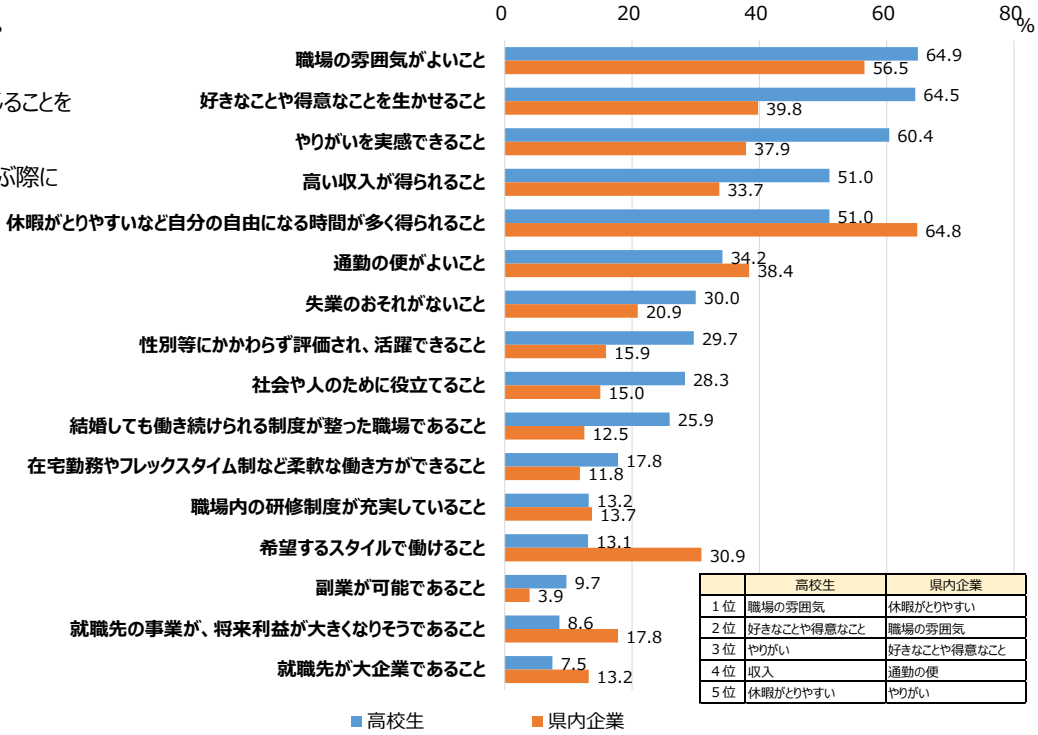


図 11　働く目的

⑧　仕事を選ぶ際に重視したいこと・重視していると思うこと（高・県内企業）

仕事を選ぶ際に重視したいことについてみると、高校生は「職場の雰囲気がよいこと」が最も多くなっている。企業は、高校生が重視している項目として、「休暇がとりやすいなど自分の自由になる時間が多く得られること」が最も多くなっている。（図 12）。

※高校生は、重視したいと感じることを全て選択。
企業は、高校生が仕事を選ぶ際に重視していると思うことについて、「重視する」「やや重視する」「あまり重視しない」「重視しない」のうち、「重視する」と回答した割合



	高校生	県内企業
1位	職場の雰囲気	休暇がとりやすい
2位	好きなことや得意なこと	職場の雰囲気
3位	やりがい	好きなことや得意なこと
4位	収入	通勤の便
5位	休暇がとりやすい	やりがい

図 12　仕事を選ぶ際に重視したいこと・重視していると思うこと

⑨　退職・転職に関する価値観（中・高・大）

退職・転職に関する価値観についてみると、すべての対象で「自分の力をもっと生かせる職場に転職できるのなら辞めてもよい」が最も多い。「同じ職場でずっと働いたほうがよい」は約 1 割となっている（図 13）。

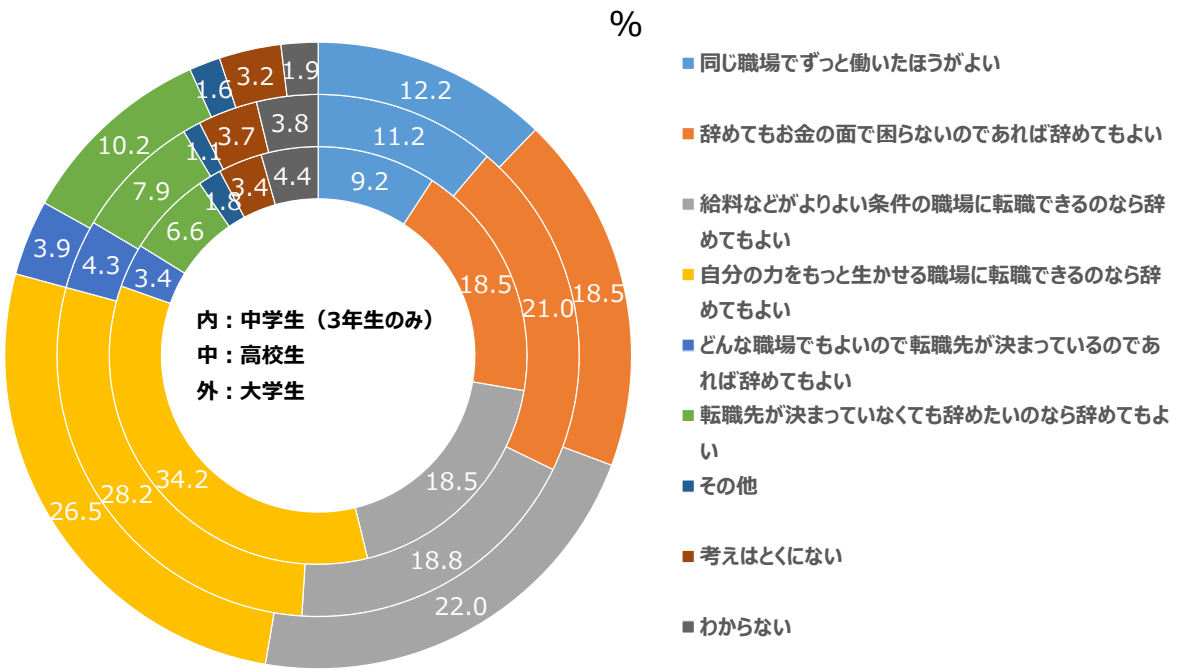


図 13　退職・転職に関する価値観

⑩　就業場所の希望（社会人は現在の就業場所）（中・高・大・社）

就職場所の希望（社会人は現在の就業場所）についてみると、「千葉県内での就職希望」が最も多い。「東京都内の就職希望」及び「県外での就職希望」は、中学生から大学生にかけて大きくなっている（図 14）。

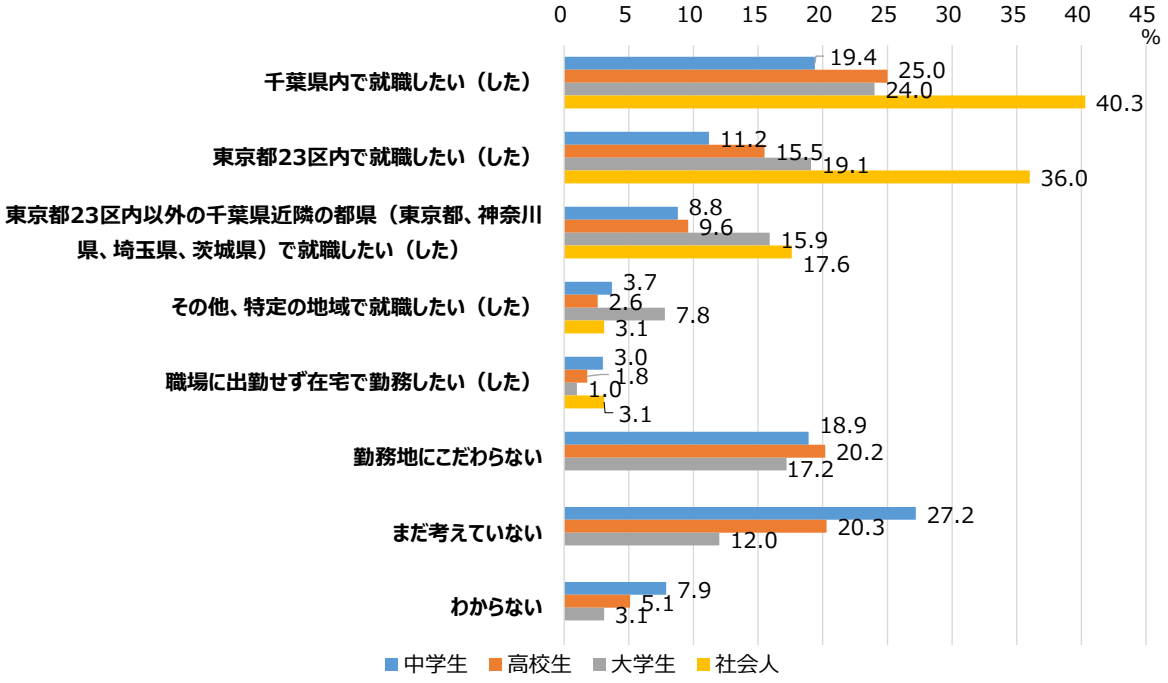


図 14　就業場所の希望

⑪　県内で就業したい（した）理由　（中・高・大・社）

県内で就業したい（した）理由についてみると、すべての対象で「千葉県での生活に慣れているから」が最も多く、次いで中学生は「保護者や家族のそばにいたいから」、高校生・大学生・社会人は「実家からの通勤に便利だから」となっている（図 15）。

※理由として、近いと感じるものを全て選択

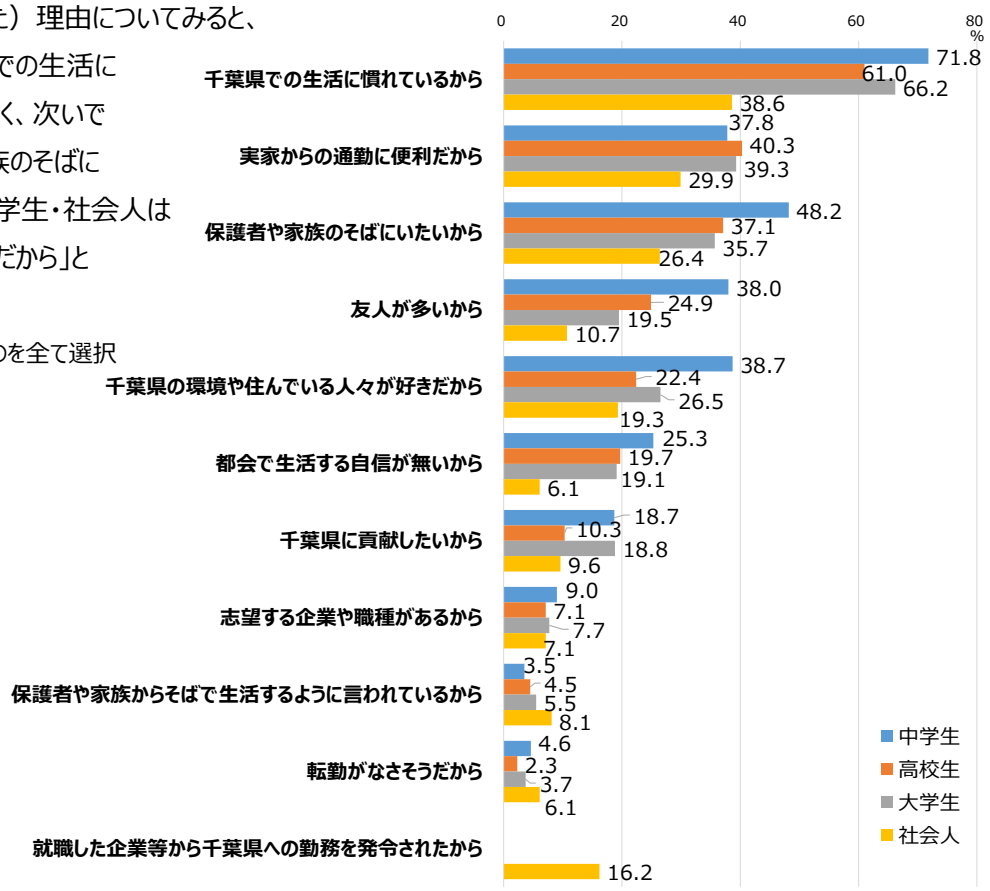


図 15　県内で就業したい理由

⑫　県外で就業したい（した）理由（中・高・大・社）

県外で就業したい（した）理由についてみると、中学生・高校生・社会人は「都会の方が楽しそうだから」が最も多く、大学生では「実家からの通勤に便利だから」が最も多くなっている（図 16）。

※理由として、近いと感じるものを全て選択

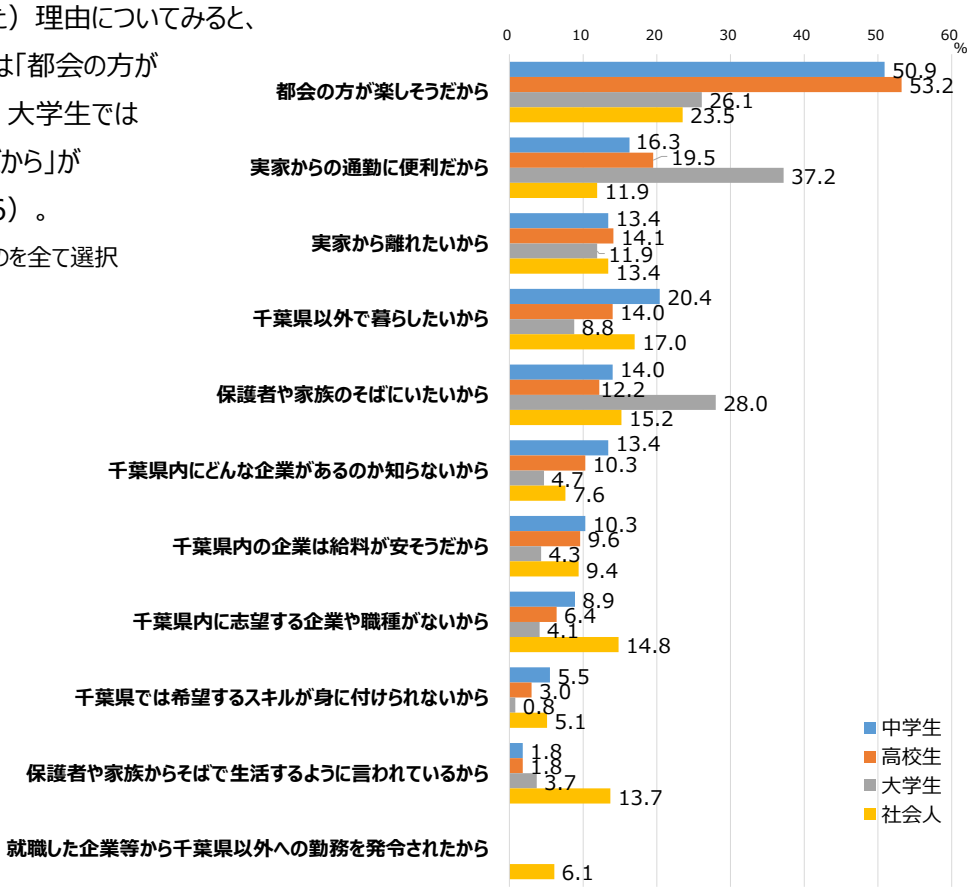


図 16　県外で就業したい理由

（３） キャリア教育等の取組の効果

① 学校のキャリア教育等で将来を考える上で影響を受けたこと・効果的だと思うこと（中・高・大・社・中学校・高校）

学校のキャリア教育の取組等（生徒は影響を受けたこと、学校は効果的だと思うこと）について、中学生、中学校ともに「高等学校の見学や説明」が最も多くなっている(図 17)。

次に高校生・大学生・社会人・高校に対し、高校のキャリア教育等で影響を受けたこと（効果的だと思うこと）についてみると、高校生、大学生は「上級学校の見学や説明」が最も多く、社会人は「自分の個性や向き・不向きを考える学習」、高校は、「校内進路ガイダンス」となっている（図 18、表２）。

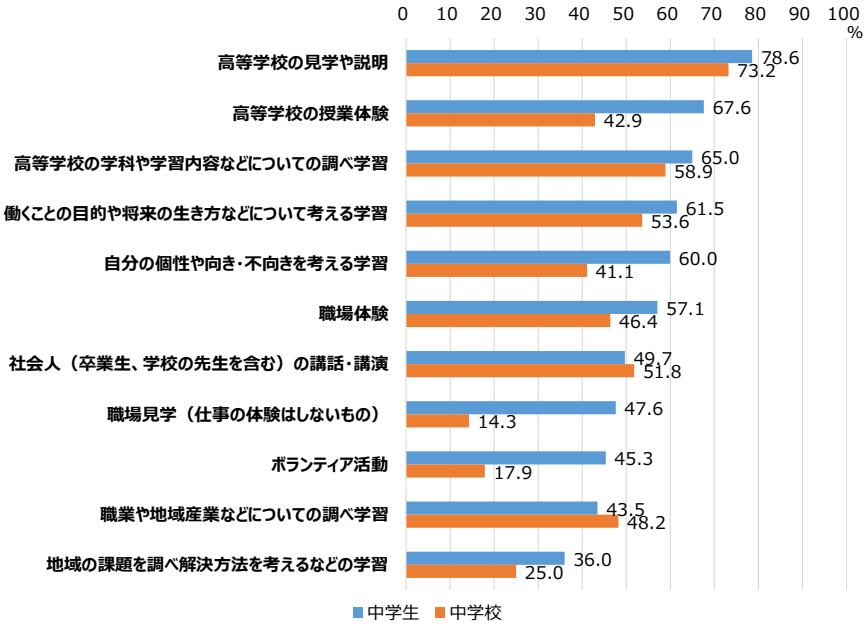


図 17 学校のキャリア教育等で影響を受けたこと・効果的だと思うこと（中学生・中学校）

※中学生・高校生・大学生・社会人において、「影響を受けた」、「影響を受けていない」、「そのような学習や活動はなかった」のうち、「影響を受けた」を「そのような学習や活動はなかった」を除いた全体で割った割合

※中学校・高校において、「効果的だ」「やや効果的だ」「あまり効果的ではない」「効果的ではない」のうち、「効果的だ」と回答した割合

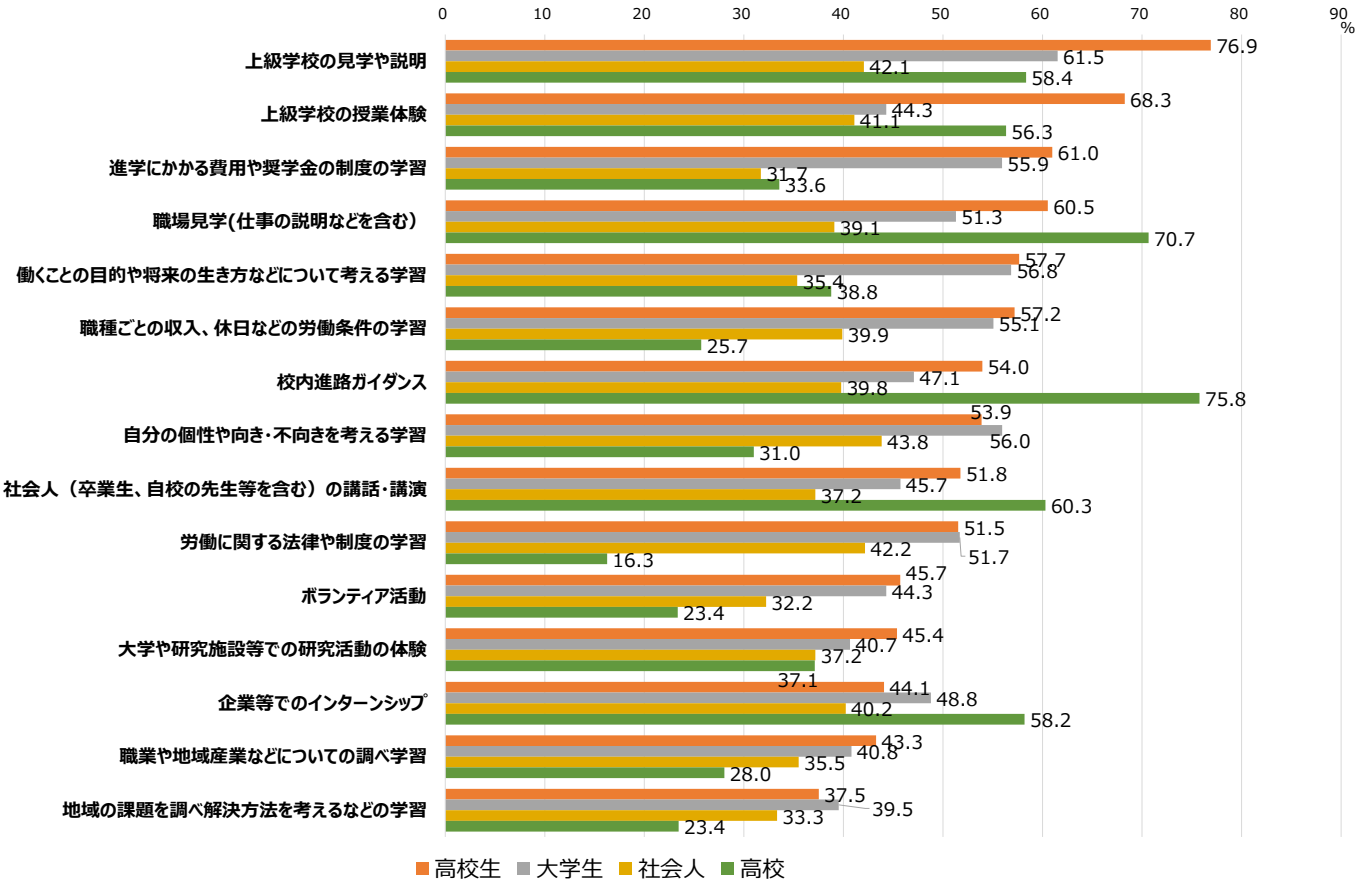


図 18 学校のキャリア教育等で影響を受けたこと・効果的だと思うこと(高校生・大学生・社会人・高校)

表２　学校のキャリア教育で影響を受けたこと・効果的だと思うこと(各対象）（上位５項目）

	中学生	中学校
1位	高等学校の見学や説明	高等学校の見学や説明
2位	高等学校の授業体験	高等学校の学科や学習内容などについての調べ学習
3位	高等学校の学科や学習内容などについての調べ学習	働くことの目的や将来の生き方などについて考える学習
4位	働くことの目的や将来の生き方などについて考える学習	社会人（卒業生、学校の先生を含む）の講話・講演
5位	自分の個性や向き・不向きを考える学習	職業や地域産業などについての調べ学習
	高校生	大学生
1位	上級学校の見学や説明	上級学校の見学や説明
2位	上級学校の授業体験	働くことの目的や将来の生き方などについて考える学習
3位	進学にかかる費用や奨学金の制度の学習	自分の個性や向き・不向きを考える学習
4位	職場見学(仕事の説明などを含む)	進学にかかる費用や奨学金の制度の学習
5位	働くことの目的や将来の生き方などについて考える学習	職種ごとの収入、休日などの労働条件の学習
	社会人	高校
1位	企業等でのインターンシップ	職場見学(仕事の説明などを含む)
2位	社会人（卒業生、自校の先生等を含む）の講話・講演	働くことの目的や将来の生き方などについて考える学習
3位	上級学校の見学や説明	校内進路ガイダンス
4位	働くことの目的や将来の生き方などについて考える学習	企業等でのインターンシップ
5位	職業や地域産業などについての調べ学習	地域の課題を調べ解決方法を考えるなどの学習

②　キャリア教育等で将来を考える上で体験できればよかったこと

キャリア教育等で将来を考える上で体験できればよかったことについて、大学生は「自分の個性や向き・不向きを考える学習」が最も多く、社会人は「企業等でのインターンシップ」が最も多くなっている（図 19）。

※設問「学校のキャリア教育で影響を受けたこと」で「そのような学習や活動はなかった」と回答した項目の中で選んだ割合（複数回答）

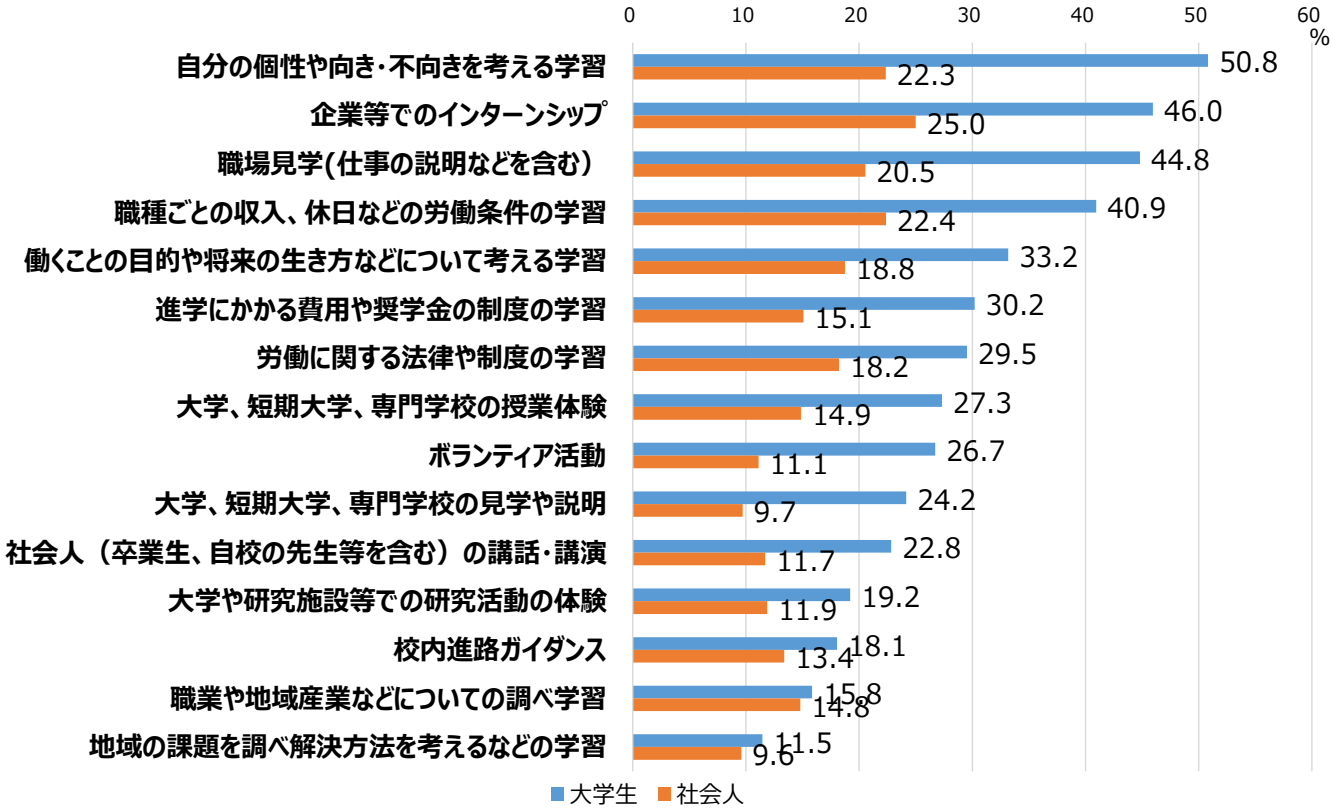


図 19　キャリア教育等で将来を考える上で体験できればよかったこと

（４） キャリア教育推進に向けての取組（学校）

① キャリア教育推進に向けて重視すること（中学校・高校）

キャリア教育推進に向けて重視することについてみると、中学校は、「職場体験や社会人の講話など、キャリア教育にかかわる体験的な学習の充実」が最も多く、高校は「キャリア・カウンセリング（進路相談）の充実」が最も多くなっている（図 20）。

※「重視したい」「ある程度重視したい」「あまり重視しない」「重視しない」のうち、「重視したい」と回答した割合

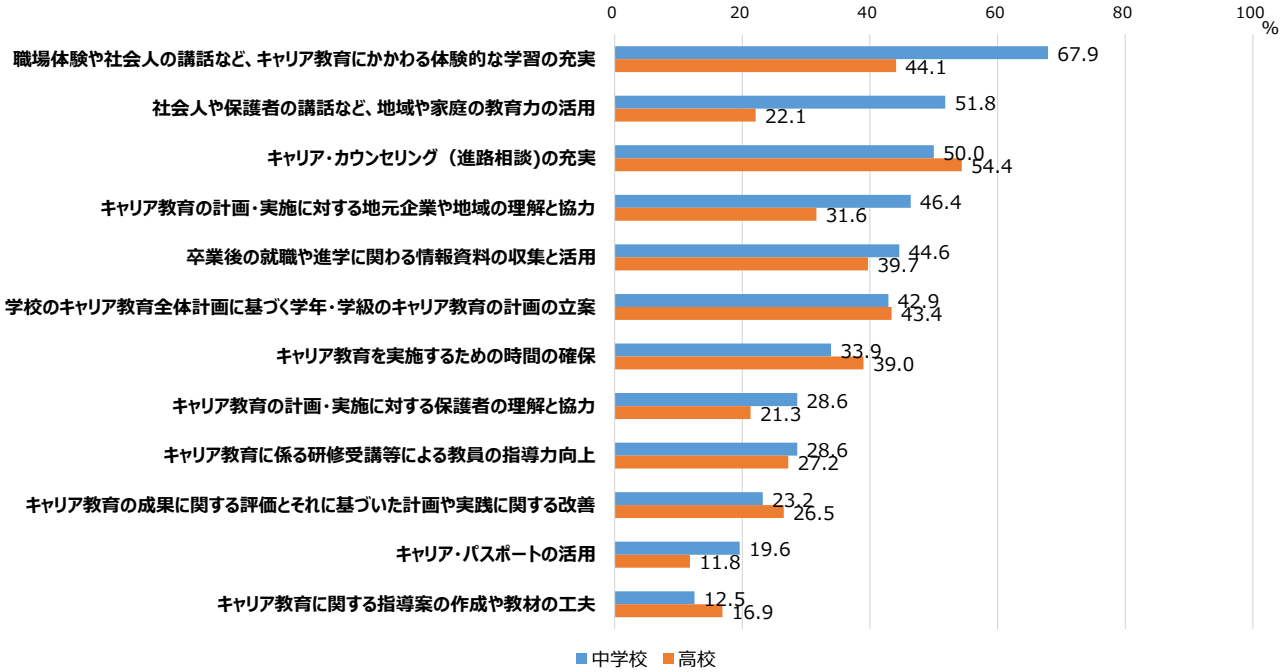


図 20 キャリア教育推進に向けて重視すること

② キャリア教育推進に向けて困っていること（中学校・高校）

キャリア教育推進に向けて困っていることについて、「キャリア教育を実施する十分な時間が確保できない」、「キャリア・パスポートの活用方法に難しさを感じている」が多くなっている（図 21）。一方、自由記述において、担当教員の不足や業務多忙化についての意見も見られた。 ※困っていることを全て選択

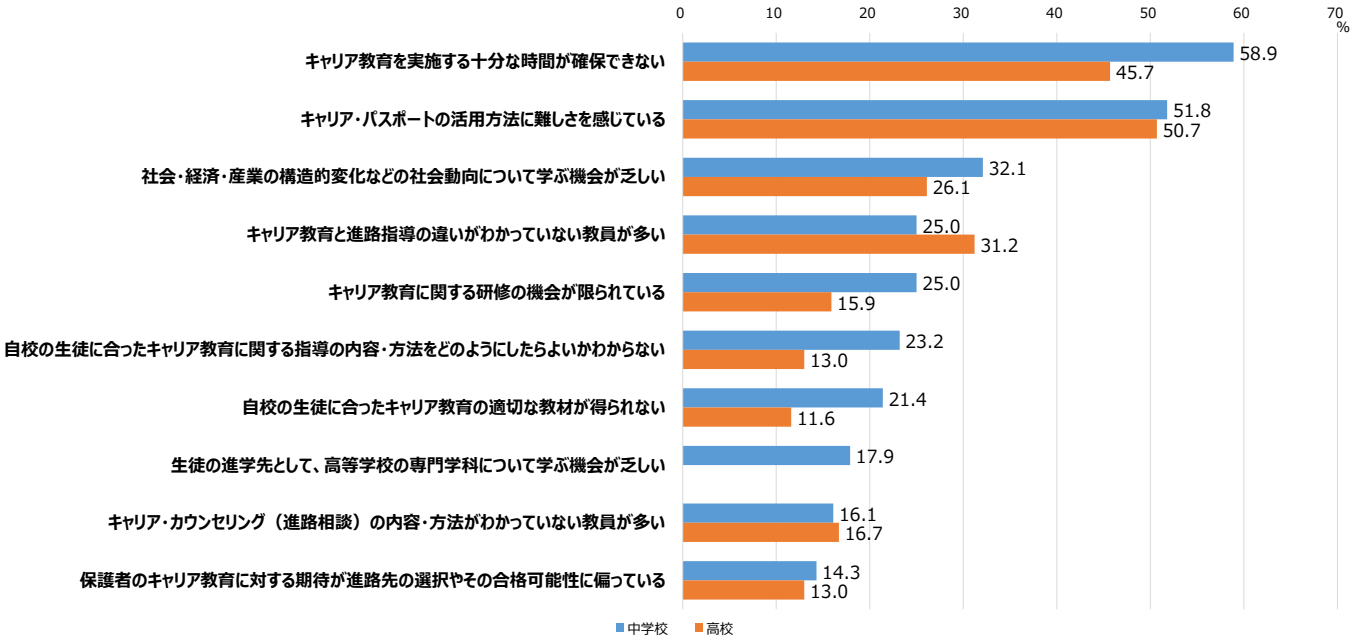


図 21 キャリア教育推進に向けて困っていること

③　就職を支援する上での課題（高校）

就職を支援する上での課題についてみると、「生徒が社会情勢を知る機会を十分に提供できていない」が最も多く、次いで「就職支援を行える教員が少ない」、「生徒が自己分析をする機会を十分に提供できていない」となっている（図 22）。 ※課題として感じていることを全て選択

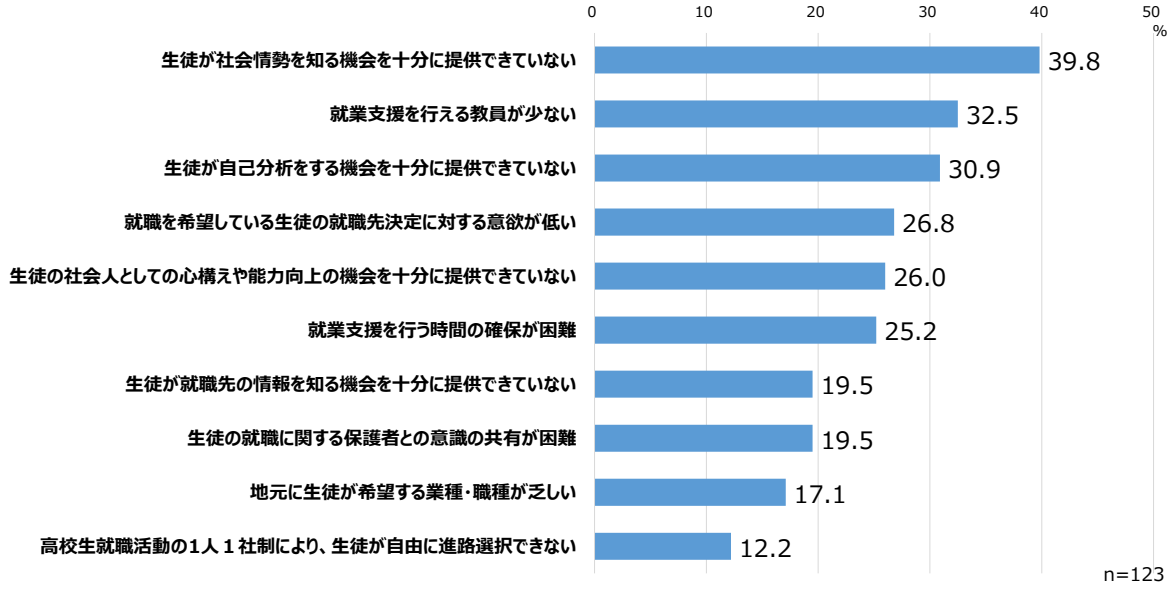


図 22　就職を支援する上での課題（高校）

④　キャリア教育を推進する上で効果的な研修（中学校・高校）

キャリア教育を推進する上で効果的な研修をみると、中学校では「総合的な学習（探究）の時間、特別活動、各教科等におけるキャリア教育の実践についての研修」が最も多く、高校では「キャリア・カウンセリング（進路相談）の実践に関する研修」が最も多くなっている（図 23）。

※「効果的だ」「やや効果的だ」「あまり効果的ではない」「効果的ではない」のうち、「効果的だ」と回答した割合

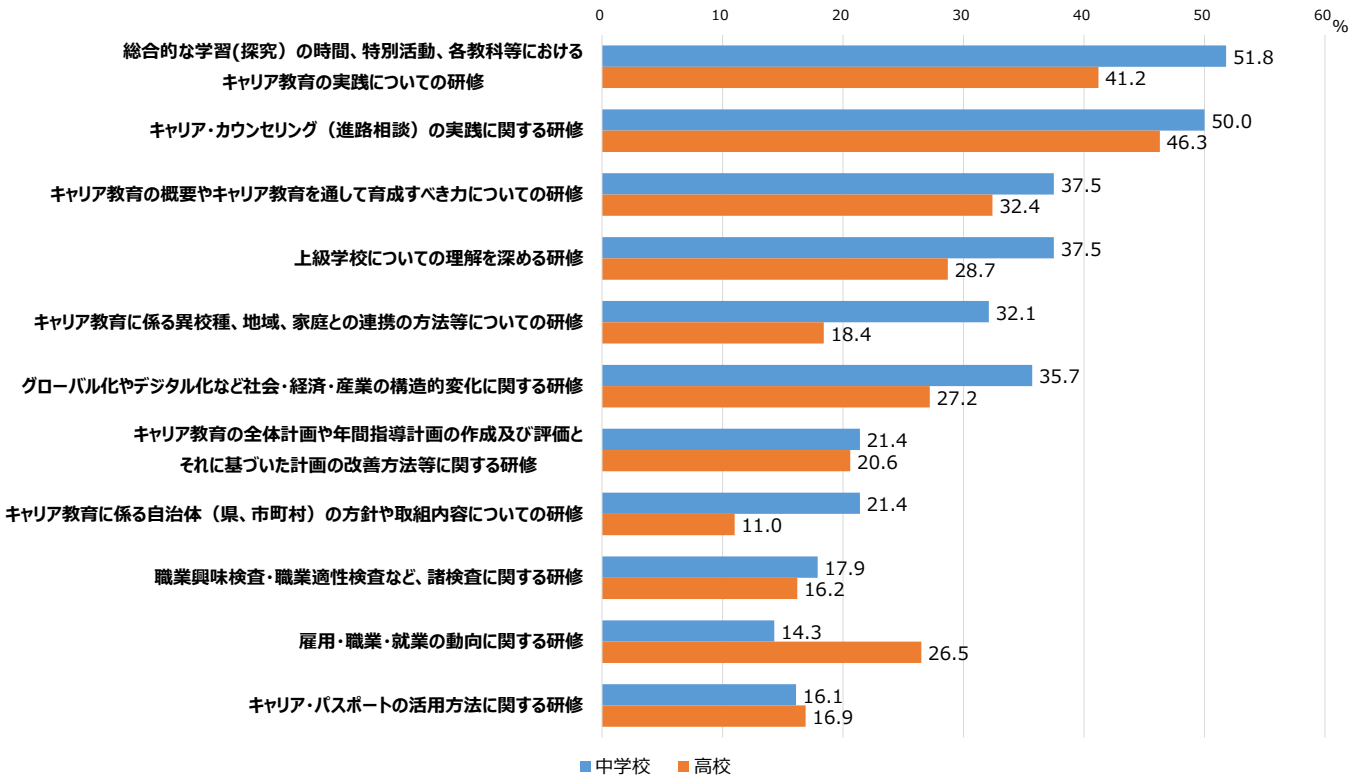


図 23　キャリア教育を推進する上で効果的な研修（中学校・高校）

（５） 採用に当たっての課題（企業アンケートから）

① 新卒者の採用に当たっての課題（高卒）

新卒高卒者の採用に当たっての課題についてみると、計画した人数を下回ったと回答した企業では、「求人に対する応募が少ない」が最も多く、次いで「他社との人材獲得競争が激しい」となっている（図 24）。

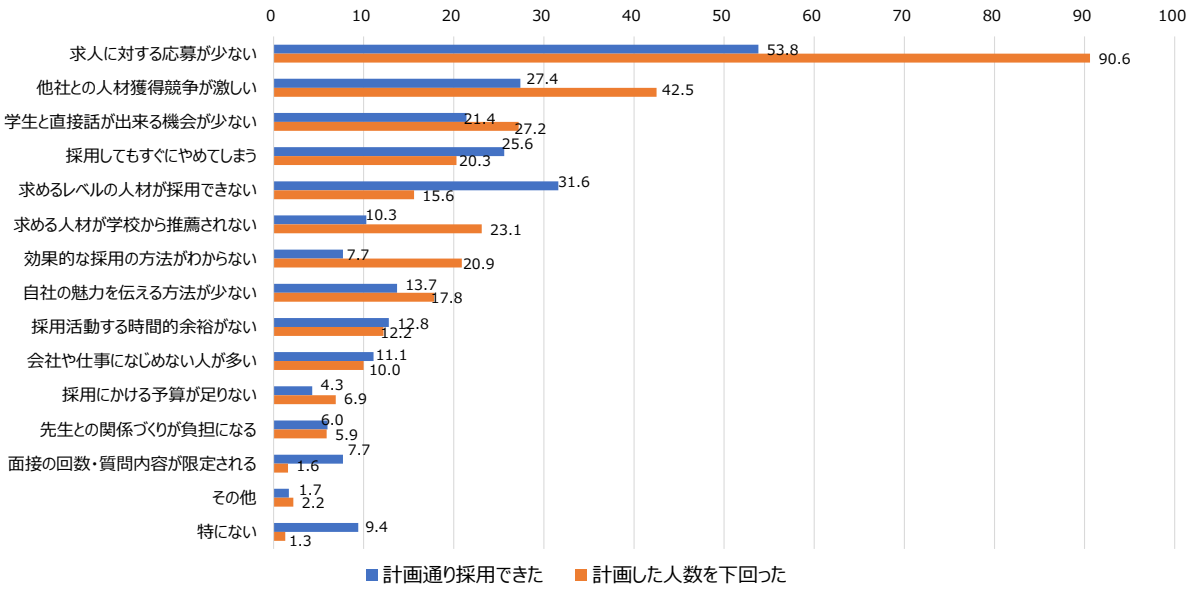


図 24 新卒者の採用に当たっての課題（高卒）

② 新卒者の採用に当たっての課題（大卒）

新卒大卒者の採用に当たっての課題についてみると、計画した人数を下回ったと回答した企業では、「求人に対する応募が少ない」が最も多く、次いで「他社との人材獲得競争が激しい」となっており、これは、新卒高卒者の採用に当たっての課題と変わらない（図 25）。

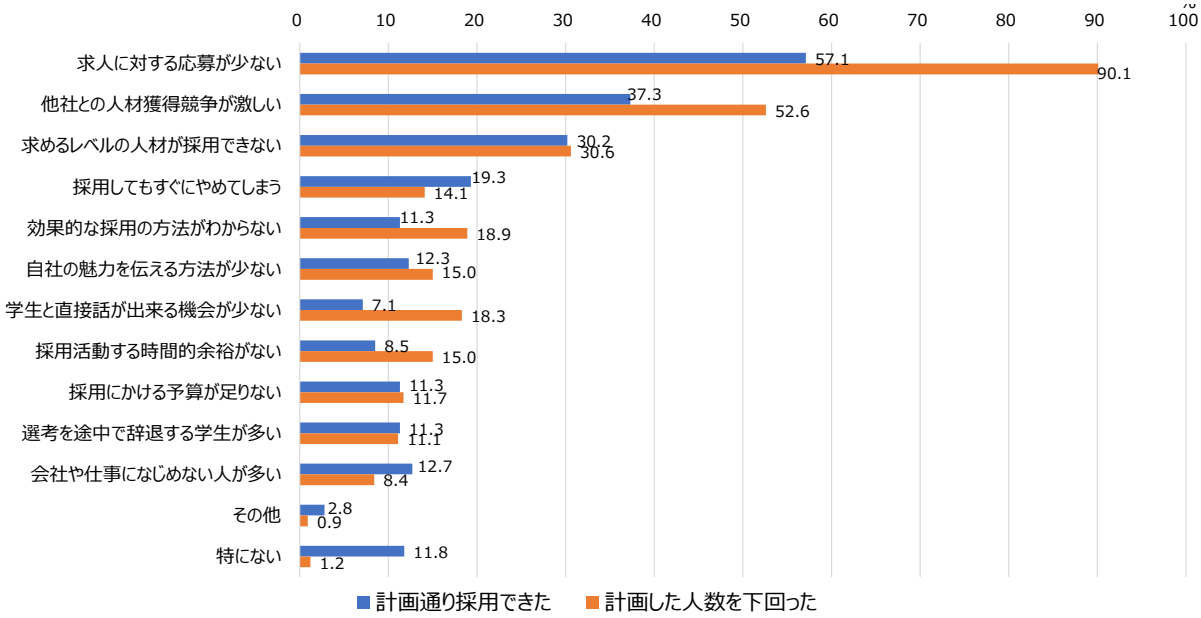


図 25 新卒者の採用に当たっての課題（大卒）